

岩手県環境研センター年報

Annual Report. I-RIEP.

ISSN : 1348-1886

CODEN : IKHKBM

ANNUAL REPORT OF  
IWATE PREFECTURAL RESEARCH INSTITUTE FOR  
ENVIRONMENTAL SCIENCES AND PUBLIC HEALTH  
No.18 2018

# 岩手県 環境保健研究センター 年 報

第18号 平成30年度（2018）

岩手県  
環境保健研究センター

IWATE PREFECTURAL RESEARCH  
INSTITUTE FOR ENVIRONMENTAL  
SCIENCES AND PUBLIC HEALTH  
(I-RIEP)

## はじめに

岩手県環境保健研究センターは、公害センターや、県内保健所の検査部門との統合を経て現在に至っていますが、昭和 23 年 11 月に岩手県衛生研究所として発足して 72 年目に入りました。

また、東日本大震災津波から 8 年が経過し、新しい県の総合計画である「いわて県民計画（2019～ 2028）」の中に「復興推進プラン」を位置付け、被災者一人ひとりの復興が成し遂げられるように、より良い復興の実現のために必要な取組を進めています。

当センターとしても、引き続き、復興事業における自然環境の保全に寄与するとともに、被災地における地域保健対策の支援や、県民の安心の確保のため、空間線量率や食品中の放射性物質の測定を行い、検査結果を速やかに公開するなどに取り組んでいます。

平成 30 年度（2018 年度）は、麻しんの集団発生が他の自治体で報告されたことや、風しんが首都圏を中心に流行したことなどから、感染拡大が懸念され、本県においても麻しん、風しん等の検査件数が増大しました。

また、2019 年のラグビーワールドカップ日本大会では、本県釜石市での試合の開催もあり、国内外からの多くの来県者が想定されました。そのため、昨年度は、マスギャザリングにおける感染症への対応として、特に麻しん・風しん、蚊媒介感染症など緊急性の高い輸入感染症の検査が円滑にできるように体制整備を図りました。

今回の年報では、平成 30 年度における『感染症や食中毒等の健康危機管理対策、環境事故等による生活環境汚染事例などへの対応』、『県民の健康と環境を守るための定例的な試験検査や監視測定』、『行政課題に対応した調査研究』、『県民、市町村、関係機関等に対する技術支援や情報発信、研修指導』などの取組状況のほか、『本県の豊かな生物多様性を保全するための希少野生動植物であるイヌワシやアツモリソウ等の研究』、『ツキノワグマの行動圏を把握するためのGPSを用いた研究』、『世界的に問題となっている薬剤耐性菌や市中で流行を繰り返す小児呼吸器ウイルスの疫学研究』の取組概要、研究課題に対する外部評価結果などについて取りまとめて掲載しています。

皆様方には、本年報を通じて、当センターの業務や研究の状況を御理解いただき、お気づきの点について御意見や御要望をお寄せください。

引き続き、本県の環境保健分野の科学的・技術的拠点としての当センターの使命を果たしていきたいと考えておりますので、今後とも御支援・御協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

令和元年（2019年）12月

岩手県環境保健研究センター

所長 高橋 勉